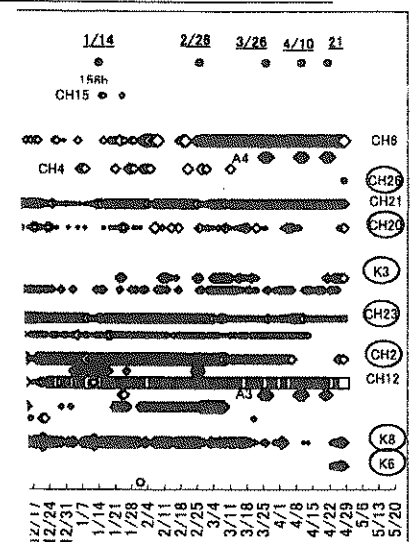
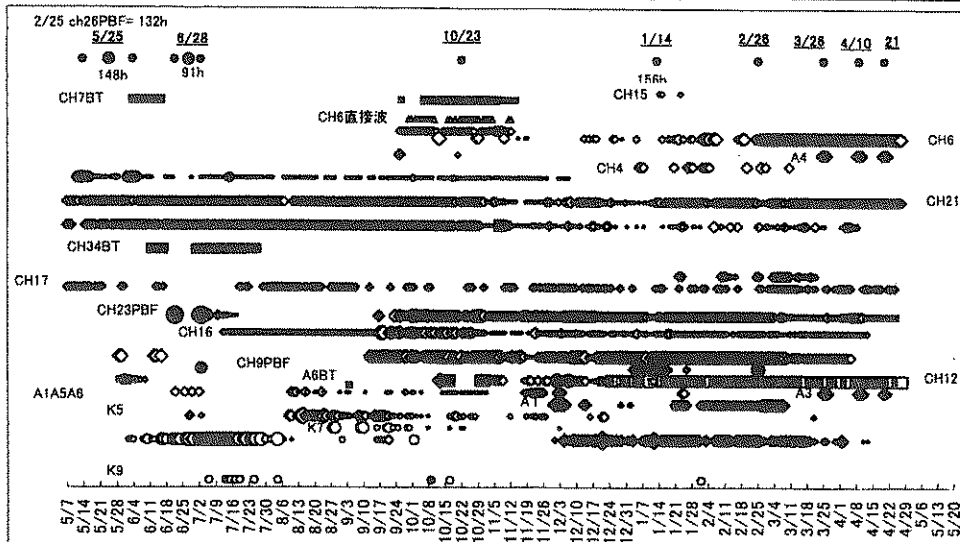


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

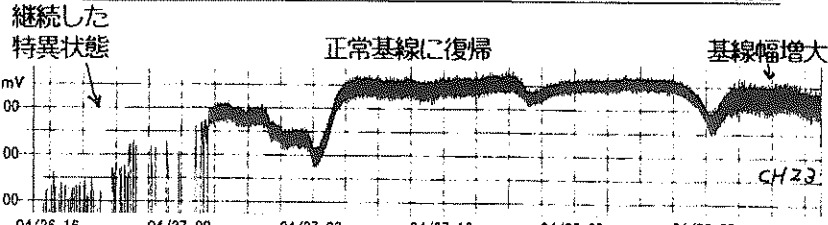
観測報告 No.1778 近畿圏大型地殻地震推定前兆 続報

高観測点K6K8同期特異+CH26PBF他 第5ステージ突入の可能性濃厚

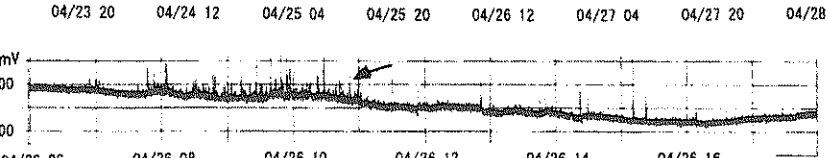
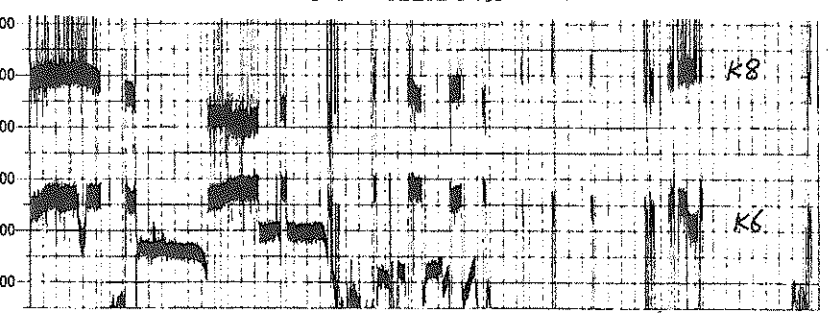
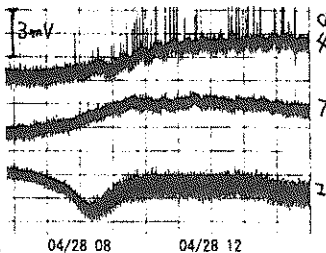


No.1778前兆 第4ステージ前兆はCH6, 21, 12を除いて完全に終息

最近になって出現したした前兆O印



上波形は八ヶ岳のCH23の継続していた特異状態から通常静穏基線への復帰の様子。4/27 1時過ぎに静穏化。CH17特異も4/25夕刻静穏化。静穏化したCH23に4/28朝08時過ぎから基線幅増大BTが認められる。但し右のとおりCH4, CH7の同期振動型PBF (PBF近似)=No.2317B前兆出現とほぼ同時刻からCH26BT出現があるため、CH26BTはNo.1778関連ではない可能性も有。



No.1778=長期継続特殊前兆(近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆)は、第4ステージ前兆群の動向から、4/29±が示唆されていました。4/29±が地震発生となるのか、この時期に極大等が出現し、第5ステージ前兆群に突入し、地震発生はより先の時期となるのか?が注目されていました。

左上図のとおり、No.1778第4ステージ前兆群は、CH6, 21, 12を除いて終息し、あくまでも4/29±発生の可能性が否定できない状況ではありましたが、しかし、CH26に本日短時間ですが、PBFが出現し、高観測点のK6, K8 他同期特異状態も、左下波形のとおり、4/23夜から出現したし、通常基線を記録する時間が短く、特異状態の時間が長くなって観測され続けています。さらに、一旦静穏化していたCH2, CH20にも弱い特異状態が出現したしています。CH21特異も最近になって完全系状特異継続。これらのことから、4/29±2 時期が新たな前兆群の極大となっている可能性が示唆され、現状の状態からは、4/29±の地震発生の可能性は考えにくく、第5ステージ前兆に入った可能性が示唆されます。

CH6 特異、CH12揃い揃い前兆等が昨年12月頃より継続している点から、現在時期の極大との関係で、第5前兆群の示す時期(地震発生時期の可能性)を求められる可能性がありますので、最近になって出現したした前兆群の今後の観測と解析を続けます。

※No.2372観測情報で波形入りで報告した火山性前兆は左下のとおり、4/26にも微弱に出現。前回とは異なる出現形態の様です。